

3) 11月1ヶ月間のうちにリハビリテーション料の算定を終了した患者の継続的なリハビリテーションの必要性

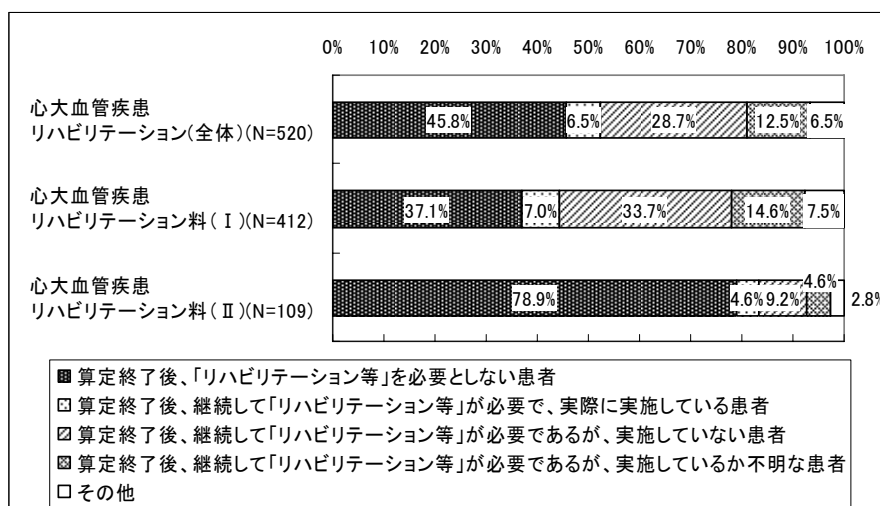
11月1ヶ月間のうちにリハビリテーション料の算定を終了した患者について、算定終了後、継続的なリハビリテーションの必要性については、次のとおりであった¹⁾。

・ 心大血管疾患リハビリテーション

病院における、心大血管疾患リハビリテーションは、「算定終了後、「リハビリテーション等」を必要としない患者」(45.8%)が最も多く、次いで「算定終了後、継続して「リハビリテーション等」が必要であるが、実施していない患者」(28.7%)となっている。内訳で見ると、心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)については、「算定終了後、「リハビリテーション等」を必要としない患者」が37.1%と最も多く、心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅱ)については、「算定終了後、「リハビリテーション等」を必要としない患者」が78.9%と最も多くなっている。

心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)と心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅱ)とは、いずれも「算定終了後、継続して「リハビリテーション等」を必要としない患者」が多いが、心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅱ)は特にその割合が高い。

図表 6.1-36 11月1ヶ月間のうちにリハビリテーション料の算定を終了した患者の継続的なリハビリテーションの必要性(心大血管疾患リハビリテーション(病院))



診療所における、心大血管疾患リハビリテーションは、心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅱ)のみであり、「算定終了後、継続して「リハビリテーション等」が必要で、実際に実施している患者」が66.7%と最も多くなっている。

¹⁾本節の図表中のNは患者実数である。ごくわずかではあるが、算定している施設基準について(Ⅰ)と(Ⅱ)を両方回答した施設があるため、(全体)ではこのような施設を除外して集計している。したがって(Ⅰ)と(Ⅱ)の合計が(全体)とはならない。